

■フランス：消費者団体が停電時間の地域格差を批判

フランスの消費者団体である UFC クショワジュールは 2013 年 4 月 25 日、国内の停電時間について地域格差が目立ち、一部の地域では状況が悪化していると批判した。全国の年間平均停電時間は、2002 年の 50 分から 2009 年に 200 分に大幅に増えた。2011 年には 73 分に減ったが、パリの年間平均停電時間が 20 分であるのに対し、最も停電時間の長いブルターニュ地方のモルビアン県では 195 分と約 20 倍の格差があり、また、停電時間の長い地域ではこの 4 年間で状況悪化しているとしている。UFC クショワジュールは、フランスの大手エネルギー事業者 EDF の配電子会社 ERDF が、年間で 20 億ユーロの設備投資が必要であるにもかかわらず 2012 年の投資額は 8 億 2,600 万ユーロ（約 940 億円）であったとし、設備投資が不十分であることを指摘している。